

7. 住宅の相続

(1) 相続した住宅の有無とその活用方法

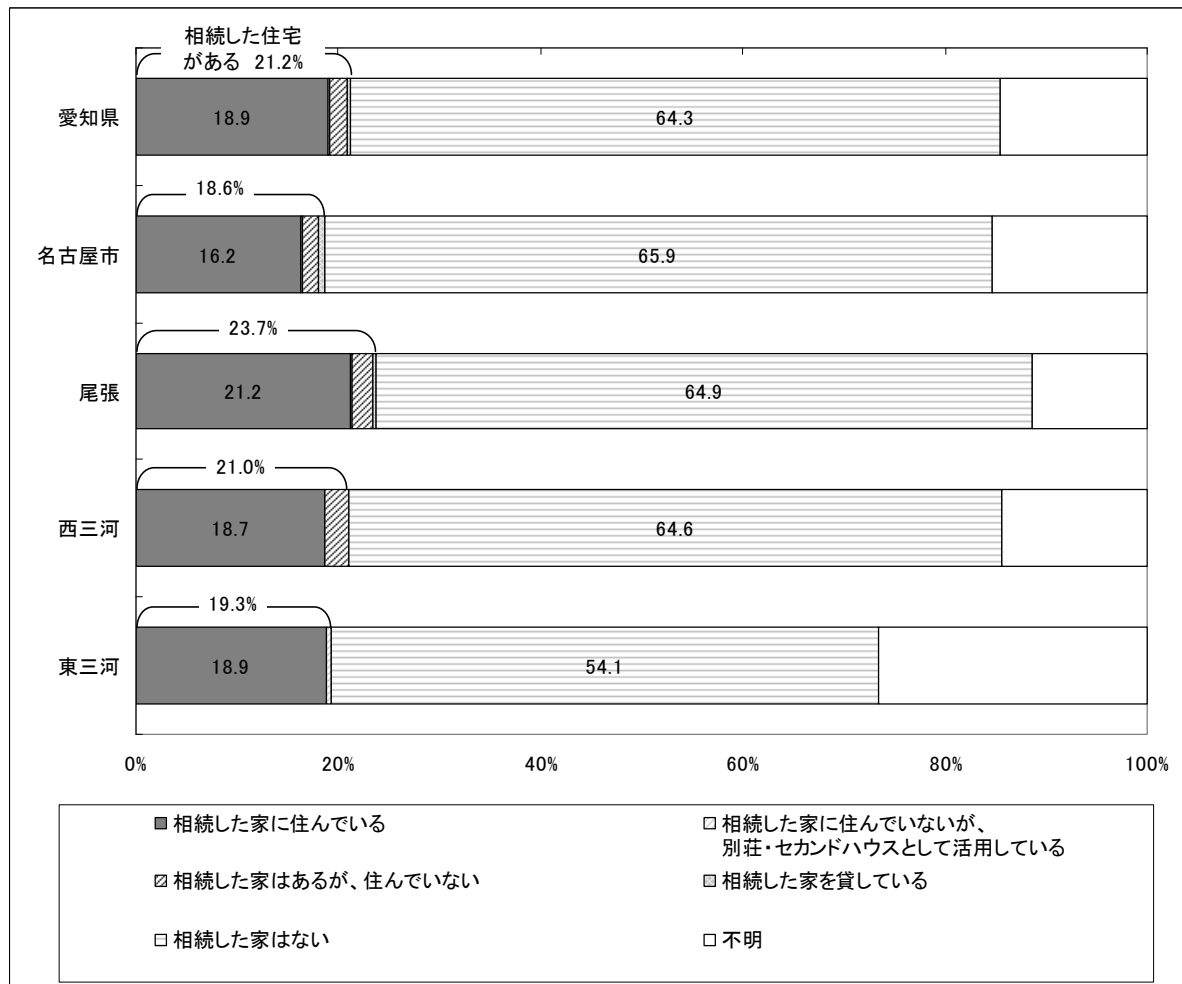
①愛知県、地域別

相続した住宅が「ある」世帯（「相続した家に住んでいる」、「相続した家に住んでいないが、別荘・セカンドハウスとして活用している」、「相続した家はあるが、住んでいない」、「相続した家を貸している」の合計）は、愛知県全体では21.2%、地域別では尾張が23.7%と最も多く、次いで西三河（21.0%）、東三河（19.3%）、名古屋（18.6%）となっている。

相続した住宅の活用方法としては、いずれの地域も「相続した家に住んでいる」が多く、尾張では21.2%、東三河では18.9%、西三河では18.7%、名古屋市では16.2%となっている。「相続した家はあるが住んでいない」については、西三河、尾張、名古屋市ではそれぞれ2.3%、2.2%、1.5%となっている。

(図-127) (表-71)

図-127 相続した住宅の有無とその活用方法

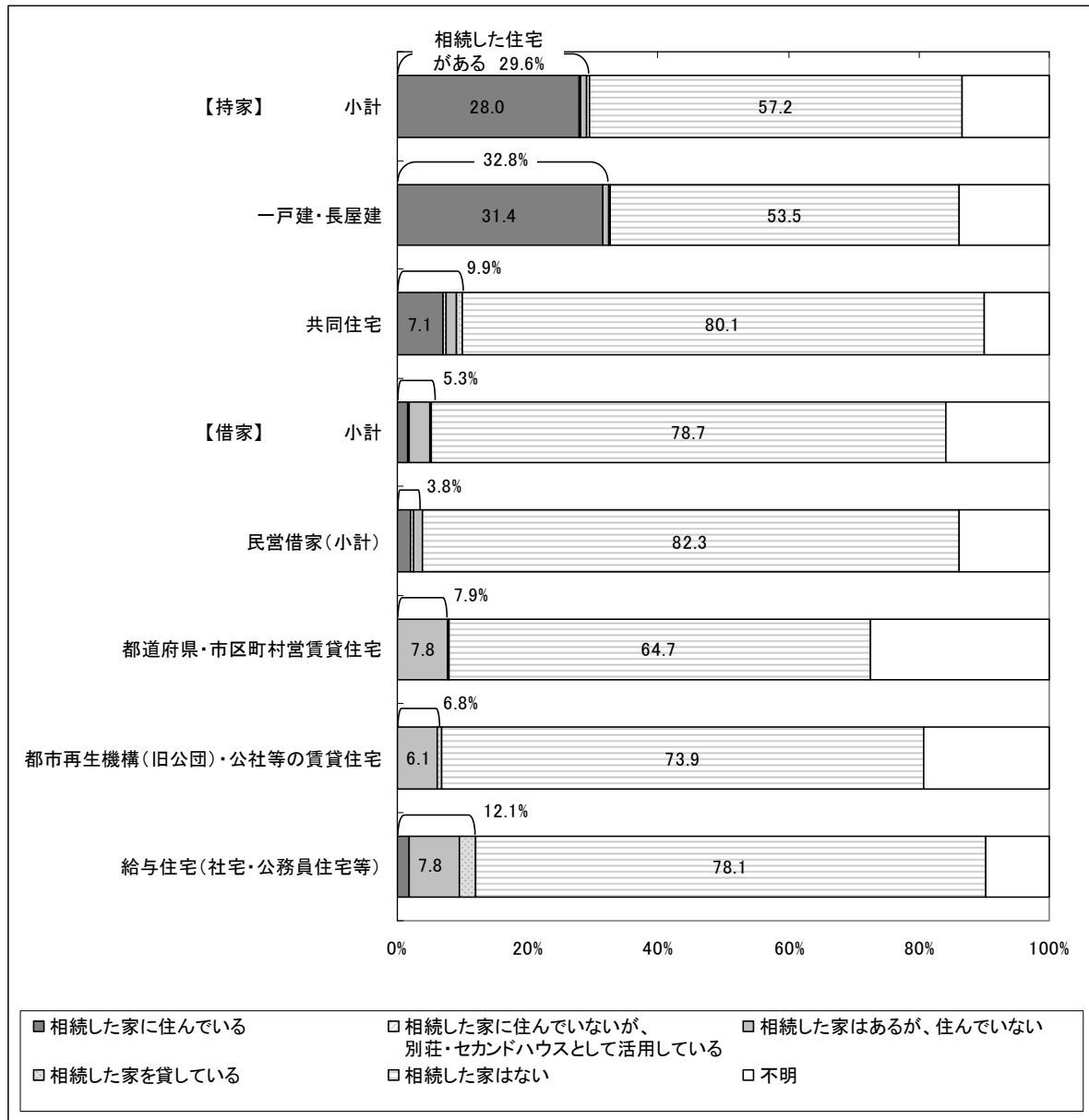


②住宅タイプ別

現在居住している住宅タイプとの関係を見ると、持家「一戸建・長屋建」で31.4%が「相続した家に住んでいる」と回答している。これに対し、持家「共同住宅」では7.1%にとどまっており、借家ではさらに少数にとどまっている。一方、借家のうち「都道府県・市区町村営賃貸住宅」、「給与住宅（社宅・公務員住宅等）」や「都市再生機構（旧公団）・公社等の賃貸住宅」では、「相続した家はあるが、住んでいない」がそれぞれ7.8%、7.8%、6.1%と一定割合みられる。

(図-128) (表-72)

図-128 住宅タイプ別、相続した住宅の有無とその活用方法

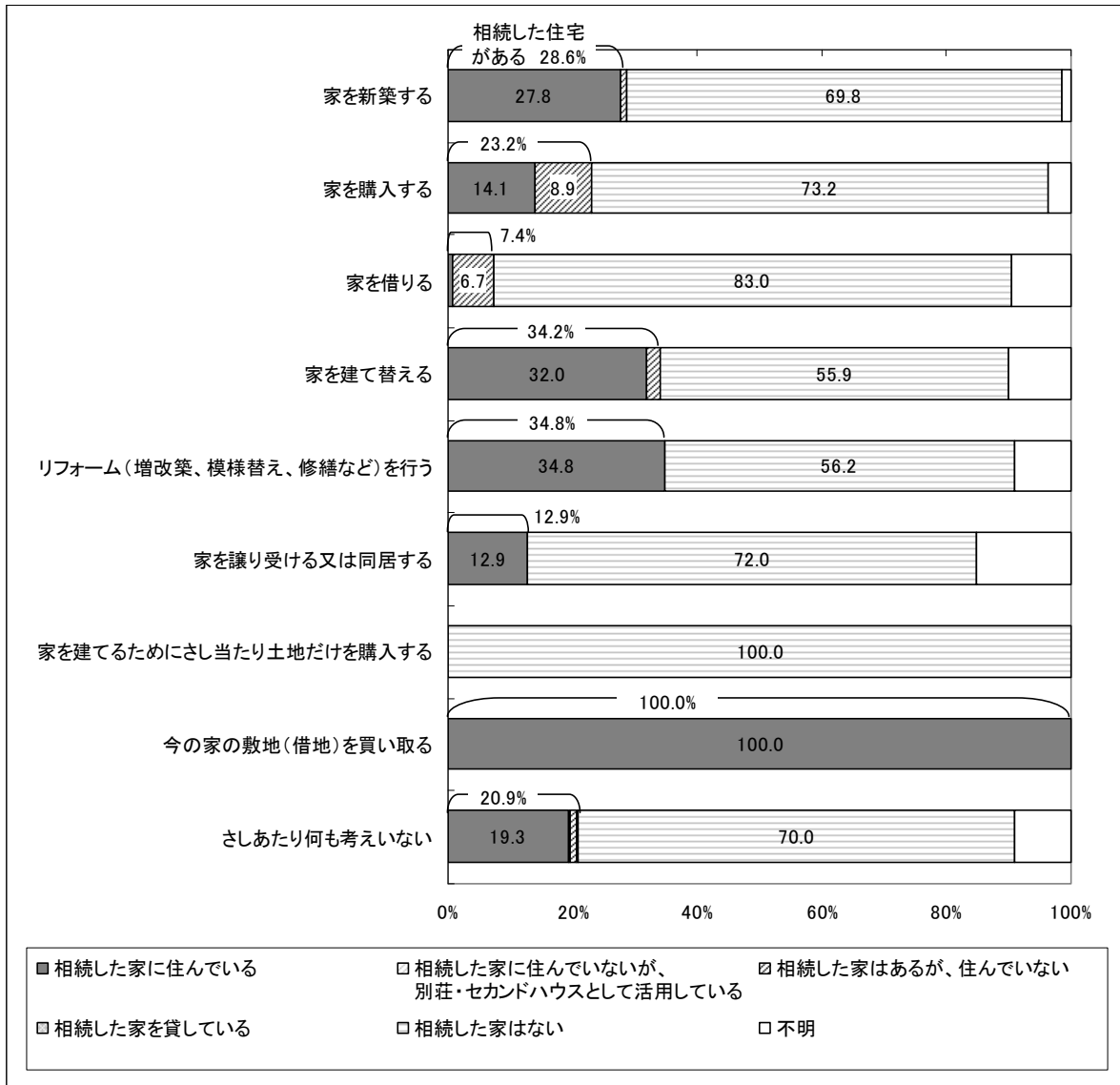


③ 住み替え・改善の意向の内容別

住み替え・改善の意向の内容別にみると、「リフォーム（増改築、模様替え、修繕など）を行う」の34.8%、「家を建て替える」の32.0%、「家を新築する」の27.8%が「相続した家に住んでいる」と回答している。また「家を購入する」の8.9%、「家を借りる」の6.7%が「相続した家はあるが、住んでいない」と回答している。

(図-129) (表-73)

図-129 住み替え・改善の意向の内容別、相続した住宅の有無とその活用方法



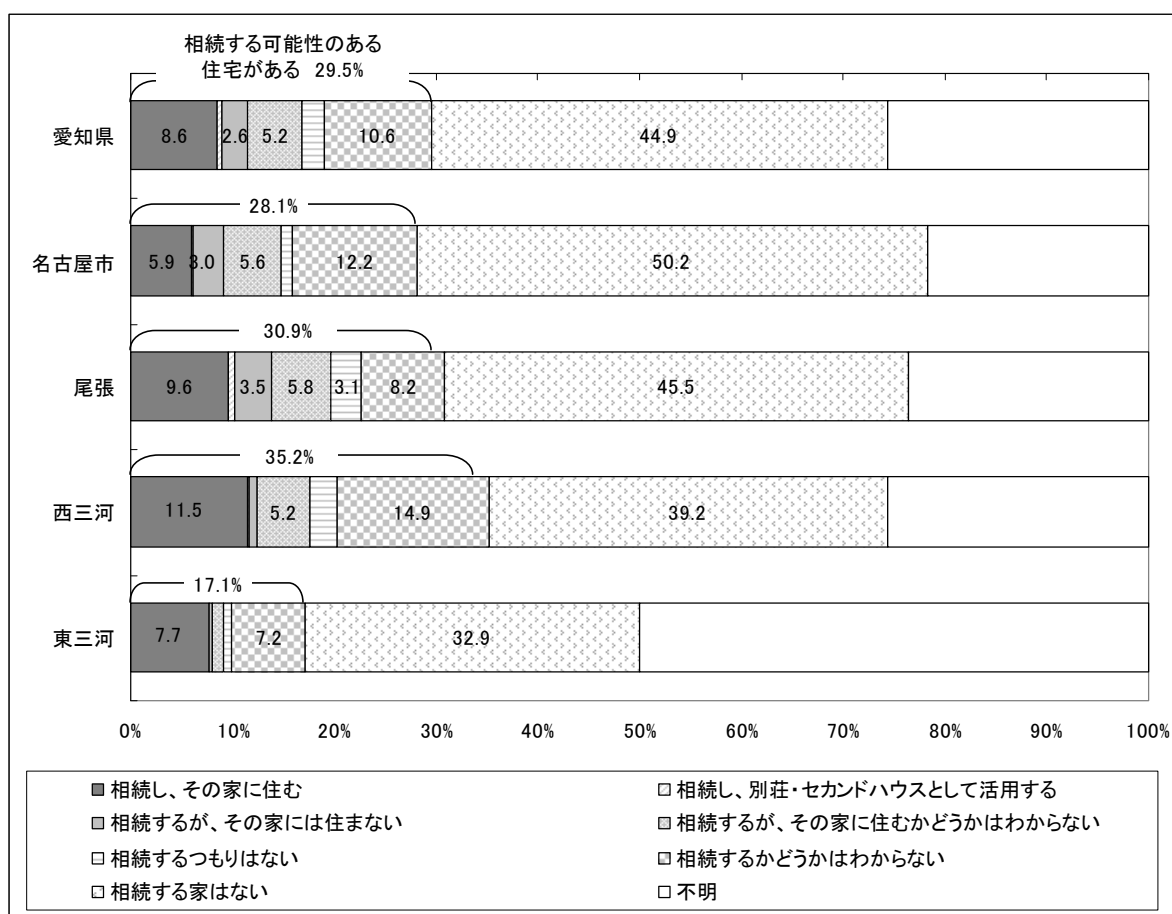
(2) 相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法

①愛知県、地域別

現在、持家に居住していない世帯のうち、将来相続する可能性のある住宅がある世帯（「相続し、その家に住む」、「相続し、別荘・セカンドハウスとして活用する」、「相続するが、その家には住まない」、「相続するが、その家に住むかどうかはわからない」、「相続するつもりはない」、「相続するかどうかはわからない」の合計）は、愛知県全体では 29.6%、西三河では 35.2%、尾張で 30.9%、名古屋市で 28.1%、東三河で 17.2%となっている。このうち「相続し、その家に住む」と回答している割合は、西三河で 11.5%となっているが、尾張、東三河、名古屋市ではそれぞれ 9.6%、7.7%、5.9%と低い割合にとどまっている。西三河では「相続するかどうかはわからない」が 14.9%と他に比べて割合が高くなっている。

(図-130) (表-74)

図-130 相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法

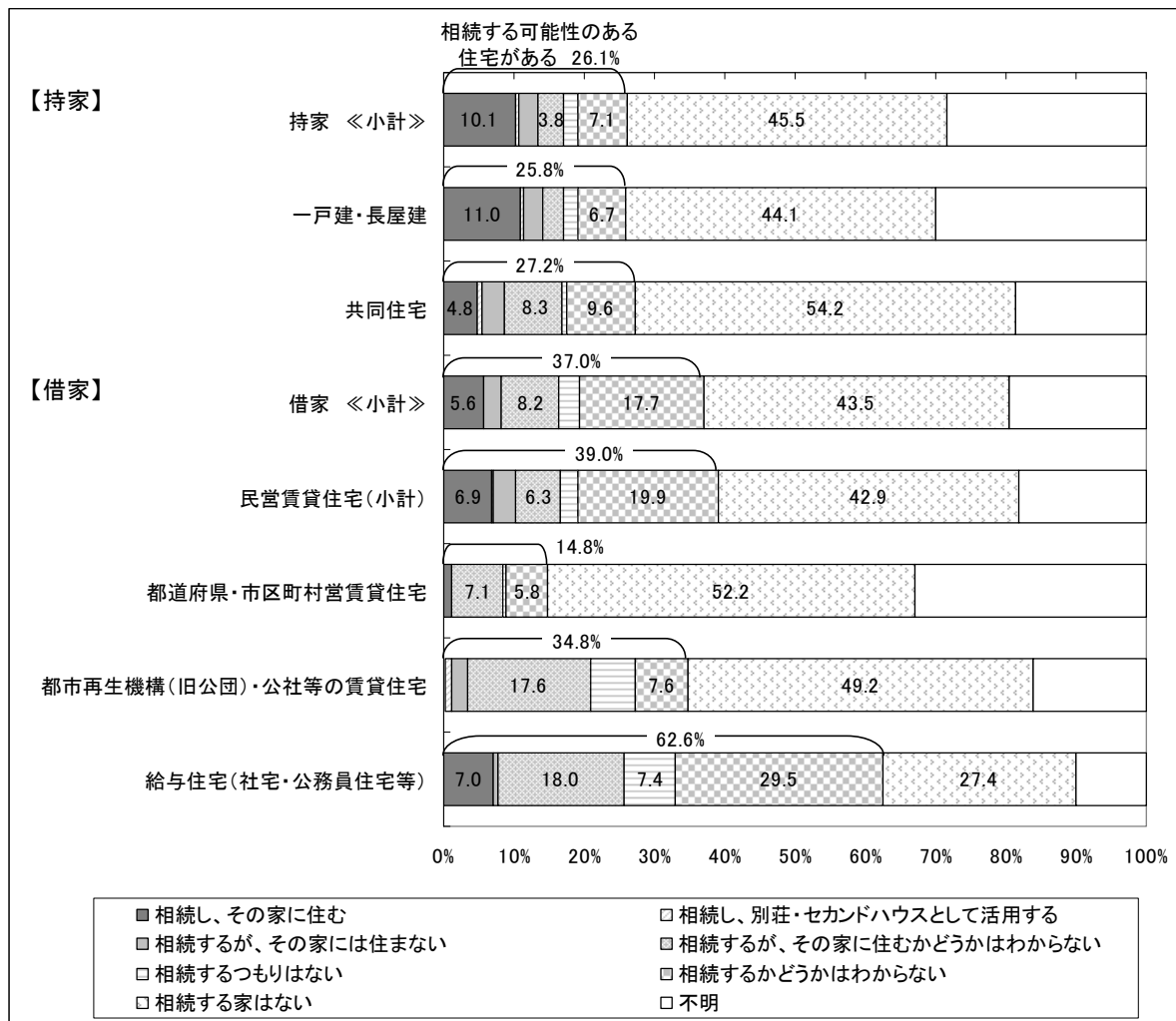


②住宅タイプ別

将来相続する可能性のある住宅の有無と現在居住している住宅タイプの関係を見ると、将来相続する可能性のある住宅がある世帯は、「持家」で26.0%、「借家」で37.1%と借家の方が上回っている。このうち「相続し、その家に住む」では、持家「一戸建・長屋建」で11.0%と他に比べて多くなっている。これに対し、持家「共同住宅」では「相続し、その家に住む」は4.8%と低く、借家の5.6%と同程度の割合となっている。「相続するが、その家に住むかどうかはわからない」は、「給与住宅（社宅・公務員住宅等）」と「都市再生機構（旧公団）・公社等の賃貸住宅」において割合が多く、それぞれ18.0%、17.6%となっている。さらに「給与住宅（社宅・公務員住宅等）」では、「相続するかどうかはわからない」が29.5%と突出して多くなっている。

(図-131) (表-75)

図-131 住宅タイプ別、相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法



③住み替え・改善の意向の内容別

将来相続する可能性のある住宅の有無と住み替え・改善の意向の内容の関係をみると、「相続し、その家に住む」とする世帯の割合は、「家を譲り受ける又は同居する」の中で40.8%、「家を建て替える」の中で34.1%と多くなっている。一方、「相続するかどうか分からない」割合に着目すると、「家を購入する」では60.6%が将来相続する可能性のある住宅があると回答している中で、「相続するかどうか分からない」が25.3%と多くなっている。同様に、「家を借りる」や「家を建てるためにさし当たり土地だけを購入する」において、それぞれ22.4%、22.1%が「相続するかどうか分からない」と回答している。

(図-132) (表-76)

図-132 住み替え・改善の意向の内容別、相続する可能性のある住宅の有無とその活用方法

